



まちびと写真館

金森跨線橋(現・南橋) 1923年

其の参

撮影した人 故堤嘉明氏

堤嘉明氏。町田を中心に建設業やビル賃貸業などを手掛ける(株)堤組の前身である「町田砂利商会」の創業者。震災当時26歳。



町田を襲った 関東大震災の爪痕

大正12(1923)年9月1日の午前11時58分、静岡県伊東市東の相模湾海底を震源とするM7.9の烈震が関東を襲った。町田市の揺れは非常に激しく、地鳴りを伴った不気味なものだったという。町田駅周辺には地割れも走り、建物から避難した住民は空地や竹藪に逃げこんだ。原町田四丁目の三橋宝永堂(現在のブックオフ)向かいにあった洋館風の町田銀行や横浜線原町田駅なども全壊した。夜になっても余震は続き、東の空(東京方面)は真っ赤に焼けてまるで昼間の様な明るさだった。大きな被害を受けた横浜線は原町田駅(八王子駅が9月20日に復旧、東神奈川駅間は9月28日に復旧した。特に成瀬の西から高ヶ坂にかけての被害は甚大で、「地震の道」とまで呼ばれた。横浜線を跨ぐ金森跨線橋(現・南橋)をはじめ、橋はことごとく落ちたというが、これは当時まだコンクリート製の橋が少なく、多くが土橋であったためとされる。町田地域の被害は家屋全半壊が3749戸、死者16人、負傷者37人。あれからもうすぐ百年になる。

(参考「大正震災誌」「町田市史」)